丸山エリア

■エリアの概要

丸山はかつて「江戸の吉原」、「京の島原」と並ぶ「日本三大花街」と呼ばれた場所で、地区内には「花月」や「中の茶屋」などのかつての建築物や石畳の路地が残っており、「長崎検番」が当時のお座敷芸を継承しています。

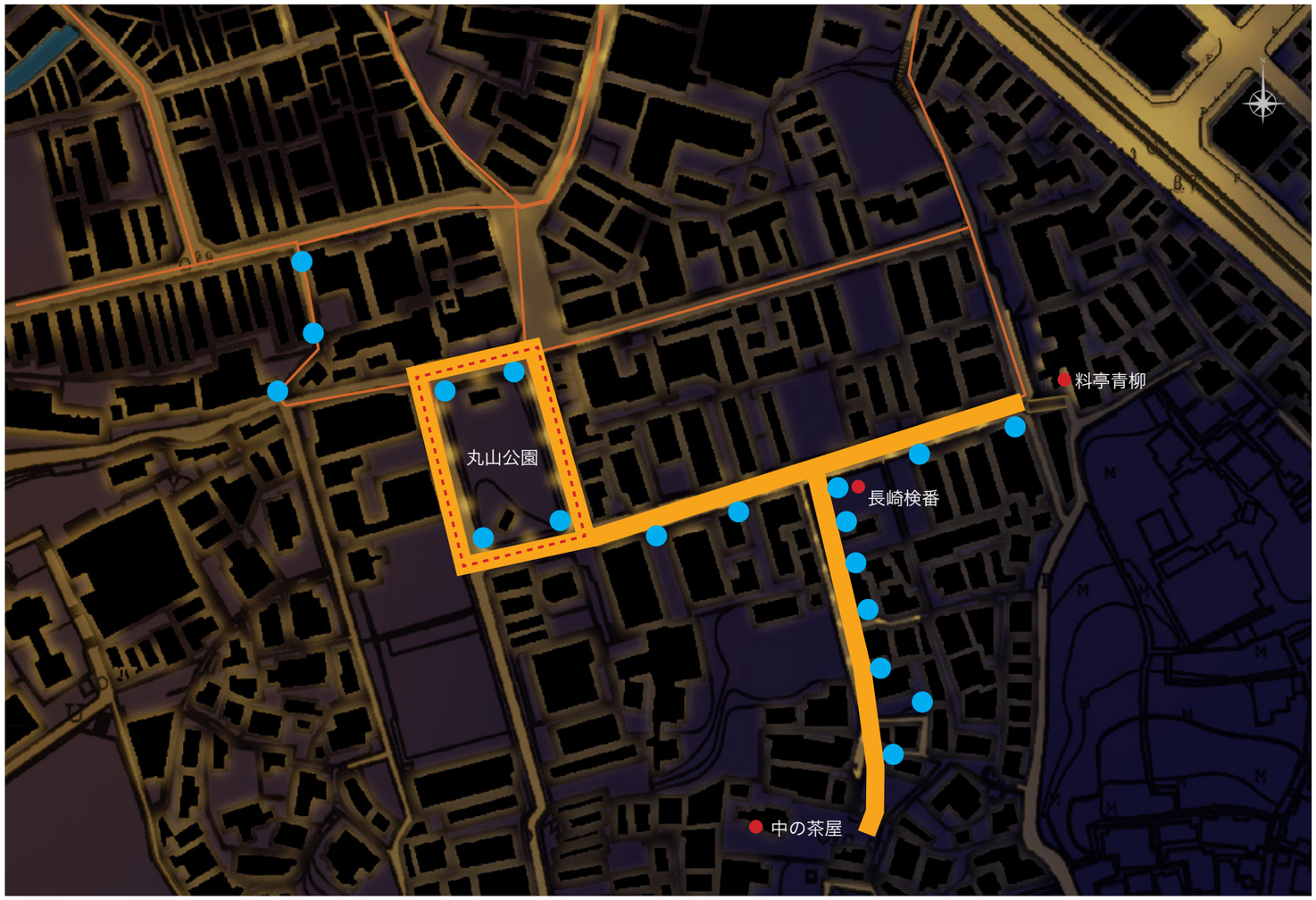
コンセプト：路地の風情に誘われる光

まちの風情を感じてもらうため、路地の灯りや建物からの漏れ光により、さりげなく人々を誘い込むような夜間景観の形成を目指します。

■方針

・料亭や石積み等のランドマークは、繊細なライトアップを行います。
・夜間に多くの人が利用する丸山公園の照明を見直します。
・和風の意匠で統一された街路灯を効果的に展開します。
・通り沿いに行灯や門灯を設けることを推奨します。

… ランドマーク
… 公園・広場等
… 主な動線
… 和風のデザイン街路灯を設置する路線
… 通り沿いに行灯等の設置を推奨する箇所



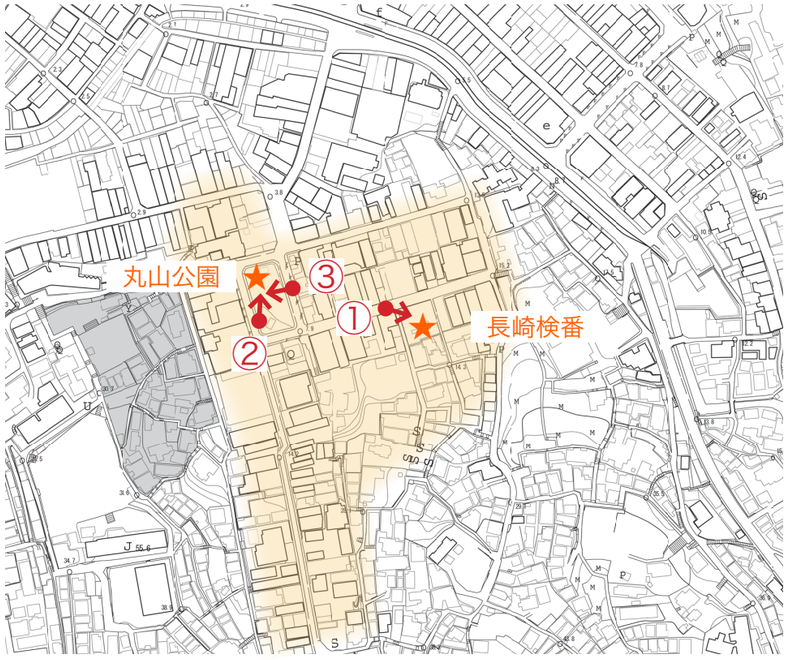
4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-5. 丸山エリア

現状調査

■現状分析と課題

往時の面影を残す風情ある料亭、ふと見え隠れする路地には、艶めいた時代を想像させる空気が残っていますが、夜になると住宅地としての印象が強く、提灯型の街路灯の存在感が際立ちます。隣接する館内・新地エリアや春雨通りエリアと合わせてそぞろ歩きができるような、夜に歩いてこそ風情を感じられるような夜間景観の整備が必要です。



★ … ランドマーク

♂ … 調査写真撮影箇所

①長崎検番周辺

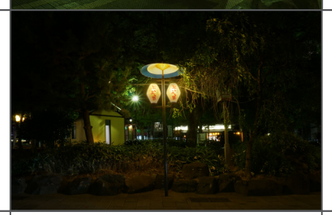
②丸山公園

③和風の街路灯

街路灯だけでは暗く寂しい印象。自動販売機や駐車場の明かりにより照度は保たれているが、同時にまぶしさを感じる。

公園内はポール灯が眩しいため、路面照度が出ているが暗く感じる。

和風の街路灯は輝度も程よく見た目にも楽しい。ただし公園内のポール灯のグレアにより印象が半減している。

	現状調査から見た問題点		夜間景観向上のための基本原則
陰影の考え方		・ポール灯の明るさに対し、 自動販売機の光が強すぎる	・1-20Lx 程度の幅で情緒ある陰影をつくる
色温度		・ナトリウムランプは 2000K、 街路灯の一部は 5000K	・2700-3000K 程度に整える
鉛直面輝度		・自動販売機の光が強過ぎる	・自動販売機を設置する場合は光に配慮する ・建物からの漏れ光を活用する
グレア対策		・行灯デザイン灯はグレアの問題はなし ・一般ポール灯はまぶしい	・一般ポール灯のグレアを抑える
演色性の優先度		・公園などの照明に演色性が低いものがある	・Ra80 以上を基本とする
器具		・和風の灯具で統一されており、大きな問題なし	・引き続き、和風の灯具で統一する
オペレーション		・大きな問題なし	・特記事項なし

※ Lx（ルクス）とは：光によって照らされる面の明るさ（面積あたりの光束）
※ K（ケルビン）とは：光源の固有の色味を表す単位
※輝度とは：人の目に飛び込んでくる明るさ（面積あたりの光度）
※ Ra（アールエー）とは：光源による色の見え方の再現性を表す単位

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-5. 丸山エリア

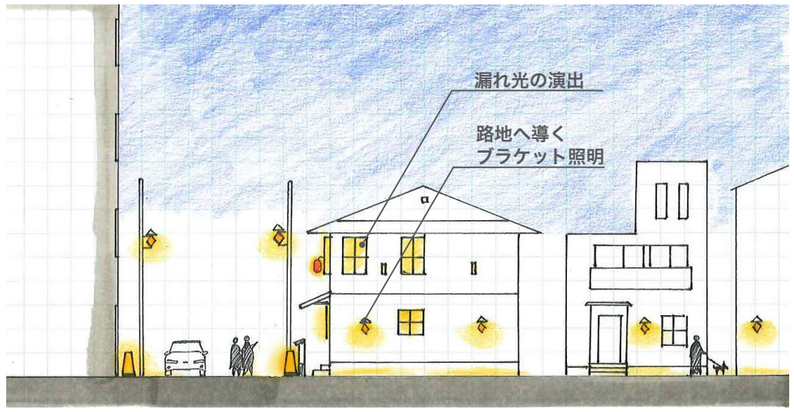
長崎検番周辺　整備イメージ

現状

整備イメージ

■整備イメージについて

長崎検番などの丸山エリアの情緒をよく表している建物については、外からのライトアップではなく、実際に人々が訪れていた時代を思わせるような、建物内側からの漏れ光を推奨します。
グレアのある街路灯ではなく、和風のブラケット照明や置き型の行灯照明を用います。
また、通りの明るさに対して自動販売機の白色の光が目立つので、設置位置や輝度に配慮します。



断面イメージ（S = 1/200）

行灯照明の事例（シンガポール）